

【 果 樹 】

末端の荷動きは鈍いが、果実全般入荷量は多くないため、流通在庫は少なく推移している状況。

干し柿については、各産地出荷後半に入り、全体量は漸減となっている。

2月からはさらに減少となる見込みから、今週から相場を底上げしながらの販売となっている。

末端の荷動きは、寒波の影響次第ではあるが、2月上旬は保合大勢で様子見の販売が続く見通し。

<あんぽ柿>

京浜市場では、1月末に単価の底上げがあった。月替わりだが引き合いは落ち着いている状況。

関西市場では、一定の注文はあるものの、荷動き自体は緩慢な状況。

「蜂屋柿 230g トレー」 単価：特秀 4L 350 円

「平核無 200g トレー」 単価：特秀 3L 290 円

「蜂屋柿 1Kg 化粧箱」 単価：特秀 3L 1,300 円

【 野 菜 】

野菜の総入荷量は若干の微減傾向も概ね前週と変わらない入荷状況で、寒波の影響を引きずる形で低調な入荷となった。

全般に例年より高値での取引となっており、末端売価はやや高く荷動きは鈍化傾向も数量の少なさから、相場は前週からは大きな変動はなかった。

2月に入ると量販店の売り場構成は、秋冬品メインは変わらずも、春商材の棚が作られ始めるため、山菜類は堅調見通しも、果菜類・葉菜類・重量野菜については、相場を下げ荷を促す販売となる見通し。

<いちご>

日量ベースの入荷量は概ね横ばいで推移している。等階級によっては、やや不足感はあるが、相場は保合で様子見の販売となっている。

@ L 450 ~ 430 円 A 380 ~ 350 円

<に ら>

京浜市場では、関東産が今後2番刈りへの切替り時期となるが、大きな増量は見込まれず相場は保合となっている。北海道市場では、相場は保合だが、低温から道内産の数量はやや伸び悩んでいる状況となっている。

@ A L 95 円 ~ 85 円

<春 菊>

京浜市場では、関東産の数量は少ないまま推移しているが、高値基調で注文は徐々に減少傾向で、相場は保合の状況となっている。北海道市場では、全体量は横ばい推移だが、末端からの注文は多く、相場は保合で堅調な販売となっている。

@ A 140 円 ~ 120 円